

令和4年度 学校評価実施報告書

幼稚園名（京都市立伏見南浜幼稚園）

教育目標

心豊かにたくましく生きる子ども ~生涯にわたる人格形成の基礎を培う~

年度末の最終評価

自己評価	<p>教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し</p> <ul style="list-style-type: none">全ての学年において、園生活の中で自分の居場所を見つけ、安定して活動する姿がみられる。また教職員との信頼関係を深め、安心感をもって主体的に活動する姿が見られ、発達段階に応じた育ちが見られた。異年齢同士がかわる機会も再開する中で、思いやりや憧れの気持ちなどの育ちが見られた。一人一人の子どもの『今』の姿を教師が『ありのまま』に受け止め、子どもの内面を見取り、その子の育ちにつながるように、個別的に、また園全体できめ細やかに援助することで、『安心感』『自立心』や友達との『協同性』『互いを認め合う』育ちが見られた。保護者や地域の協力やあたたかな見守りの援助を得て、様々な体験を行うことができた。園内外での豊かな体験活動が子どもたちの育ちにつながった。次年度にむけては、保育の中での子どもたちの学びを保護者や地域に、より分かりやすい発信を模索するとともにＩＣＴの活用にも取り組んでいく。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none">幼稚園生活の中で、様々な体験をしていることが伺える。幼稚園での豊かな体験が子どもの育ちにつながると考える。できる限りの支援を次年度もしていきたい。（米づくり・芋畑の取組など）子どもたちが自由にのびのびと活動し、保護者も子どもの成長を感じ、安心感をもっていることが感じられる。今後さらに、園の保育の発信を地域や保護者に行っていってほしい。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和4年10月28日	学校運営協議会（書面+聞き取り）
最終評価	令和5年3月10日	学校運営協議会（書面+聞き取り）

（1）幼稚園教育（保育の改善・充実）について

具体的な取組

- 学年ごとに発達に応じた具体的なテーマをもち、エピソードを基に個々の子どもの「今、この瞬間」を探り充実できるよう話しあう。
- 「今、この瞬間」の充実を図るための環境構成や教師の援助について考える。
- 保護者の保育参加を計画し、子どもと同じ目線で活動し、心を動かしていただく機会をもつ。その際に子どもの内面の育ちを保護者に伝える。

(取組結果を検証する) 各種指標

- 日々の幼児の姿の変容やエピソード検討とマインドマップの作製に取り組み、個々の育ちを探る
- アンケート項目
『園生活の中で、様々な成長がみられたか』

中間評価

各種指標結果

○日々の幼児の姿の変容やエピソード検討とマインドマップ作製

- ・教職員が一人一人の子どもの『今』伸びようとしているところや、課題を的確に捉え、細やかな援助や環境構成を行っている。今年度はマインドマップ作製にも力を入れ、各担任がつくったマインドマップをさらに全体で検討したり見直したりし、子どもの育ちを視覚化できるように取り組んでいる。その結果、3歳児は一人一人のありのままを受け入れることで、安心感をもち、『先生や友達と一緒に楽しむ姿』、4歳児はそれぞれが心を動かす瞬間を捉えることが自ら経験の幅を広げ、思いきり動いたりし、『気の合う友達に自分の思いを言葉で伝えたりする姿』、5歳児は自分の思いで自由に遊ぶ素材遊びなどを通して、心を自由にすることで、『自分の思いを出したり友達の思いを聞いたりする姿となり、一緒にめあてをもって取り組む姿』がみられるようになってきている。
- ・保護者の保育参加は5月に行い、保護者が子どもと共に遊ぶことを通して、子どもの内面に触れたり気づいたりし、育ちを直接感じる機会となった。

○保護者アンケート『園生活の中で、成長がみられたか』

- ・100%の保護者がそう思うと回答

自己評価

分析 (成果と課題)

- ・新様式ではあるが、行事や参観をもつことができるようになり、子どもの育ちを直接見ることで保護者の方の理解や協力につながった。
- ・エピソード検討やマインドマップなどにより見えてきた子どもの育ちをクラス懇談で伝えたり、ICT機器を用いて視覚的にわかりやすく伝えたりすることができ、保護者の理解につながった。

分析を踏まえた取組の改善

- ・後半期も保護者の保育参加の機会をもつ。
- ・継続して、個別、そしてクラスや園全体での育ちを、降園時や懇談などでポートフォリオやホームページ、便りなどで、視覚的に育ちを分かりやすく伝える。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- ・日々の幼児の姿の変容やエピソード検討とマインドマップ作製
- ・保護者アンケート『園生活の中で、成長がみられたか』

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・地域の方が参観できる機会は少ないが、保護者や地域の声から、一人一人の子どもに即した保育が行われているという声はよく聞かれる。
- ・今後、感染状況を見て、運営協議会理事も必要に応じて、保育参画や環境整備、保護者支援にも携わることはできるので申し出てほしい。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果

○日々の幼児の姿の変容やエピソード検討とマインドマップ作製

・一人一人の子どもの心が動き、育ちにつながる瞬間を見取ることを大事にし、その姿や変容をエピソードに書き起こしたり、マインドマップで表したりして、丁寧に捉えてきた。内面の見取りは言葉化できることだけではないことに気づき、その部分を視覚化する工夫を重ね、より子どもの心に寄り添った支援について話し合った。その結果、子どもたちの安定感が増し、それぞれの学年なりの遊びや友達に関わろうとする『意欲』、その子どもなりの気づきや発見を楽しむ『探求心』また学年が上がるにつれて『一人一人の特性を理解した上での共同性の芽生え』などがみられるようになった。

○保護者アンケート『園生活の中で、成長がみられたか』

- ・100%の保護者がそう思うと回答

自己評価	分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題
	<ul style="list-style-type: none">・全ての教職員が全ての子どもたちの姿を『まずは肯定的に』受け止めること、子どもたちの『内面』を丁寧に見取り、より子どもに寄り添った見取りができるように研修を深めたことが、子どもたちが安心感をもって園生活を過ごす姿につながっている。子どもの内面や心の動きは言葉だけでは表しにくいことがわかったが、それを視覚化またはより子どもの内面に近い言語にするための工夫が課題だと考える。・感染対策を講じながら、保護者の保育参加、参観を前年度よりも多くもつことができた。またICTを活用し、子どもたちの姿を個別にまたはクラス全体に発信する機会をもったことで、保護者がわが子だけではなく、クラスの子どもたちと共に成長していることへの気づきや理解とながった。・日々、子どもたちの姿を丁寧に伝えているが、よりわかりやすく、的確にリアルタイムに保護者や地域に伝える工夫をしていきたい。
学校関係者評価	分析を踏まえた取組の改善 <ul style="list-style-type: none">・さらに保育の中の様々なエピソード検討の機会を増やす。(記述だけでなく映像も積極的に活用する。)・保護者の保育参加の機会の充実とともに、日常の保育の発信方法の模索を続ける。その際には常に保護者の思い(ニーズや潜在的な願いなど)も丁寧に受け止める。

(2) 幼小連携・接続について

具体的な取組

- ・発達や学びの連続性に重点を置き、「学びに向かう力(特に好奇心・表現力・自己調整力など)」の育ちの姿を捉える。

- ・南浜小学校との教職員の合同研修や参観や作品展などを通して互いに学び合う機会をもつ。また、ＩＣＴを活用した園児と児童の交流を行う。

(取組結果を検証する) 各種指標

- 「学びに向かう力」の育ちの姿に関するエピソード
- 幼小連携、参観や合同研修の回数（リモートも含める）
- アンケート項目
 - 『自分の気持ちを伝えようとしているか』
 - 『好奇心をもって遊んでいるか』
 - 『小学校や中学校との連携は育ちにつながっているか』

中間評価

各種指標結果

- 「学びに向かう力」の育ちの姿に関するエピソード
 - ・いろいろな素材を使った感触遊びの中で、教師や友達と思いを交流して好奇心を高めている姿がよくみられるようになった。また、結果にこだわらず心を自由に活動する中で自分の思いを表し、集中して取り組む姿がみられるようになった。
- 幼小合同の研修会、交流活動の実施
 - ・夏休みに保幼小が合同で集合研修、9月にはスーパーバイズの研修を小学校と合同で行うことができた。幼稚園での遊びや学びについての共通理解を図り、子どもたちの育ちや教職員の援助の在り方、保育所や小学校それぞれの子どもたちの課題や教職員の取組などを交流し、相互理解を図ることができた。保育所との交流は1回、小学校とは場と時間を設けたのは1回ではあるが、日常的に交流を実施できている。今年度はチャレンジ体験も再開され、中学生を受け入れたことにより、2校の中学生との交流活動も実施することができた。
- アンケート項目
 - ・『自分の気持ちを伝えようとしているか』98%の保護者がそう思うと回答
 - ・『好奇心をもって遊んでいるか』100%の保護者がそう思うと回答
 - ・『小学校や中学校との連携は育ちにつながっているか』100%の保護者がそう思うと回答

自己評価

分析（成果と課題）

- ・学びに向かう力の中で特に重視している『好奇心』『集中力』の育ちがみられている。
- ・子どもの心の動きを捉え、読み取り、願いをもったかわりをさらに探っていく必要がある。
- ・交流活動を再開できるようになってきている。活動の再開にとどまらず、互いの育ちにつながるような機会をつくっていきたい。

分析を踏まえた取組の改善

- ・さらに5歳児では、友達同士の『高め合い』を、4歳児では、友達同士の『伝え合い』を、3歳児では、先生や友達との『関わり合い』を探っていきたい。また保護者との連携を深め、それぞれの子どもの興味や育ちに合致した活動を探ることも大切にしていきたい。
- ・可能な方法での教職員や子ども同士の幼小連携の仕方を探り実施につなげていく。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- 「学びに向かう力」の育ちの姿に関するエピソード
- 幼小合同の研修会、交流活動の実施
- アンケート項目
 - 『自分の気持ちを伝えようとしているか』

	<p>『好奇心をもって遊んでいるか』</p> <p>『小学校や中学校との連携は育ちにつながっているか』</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> 新しい様式での幼小連携を探り、子どもや教職員の交流を積極的に行ってほしい。 南浜地域運学校管協議会の存在もあるので、地域の『より大きなつながり』も活用していってほしい。

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <p>○「学びに向かう力」の育ちの姿に関するエピソード</p> <ul style="list-style-type: none"> 発達段階に応じて、一人一人の子どもが関心をもって主体的に遊びにかかるための環境構成や援助を日々模索しながら保育を進める中で、個々だけではなく、友達との関わりやクラスとしての活動を楽しむ姿が多く見られるようになってきた。他者とのかかわりの中で、互いに思いを出し合ったり折り合ったりする経験を重ねる中で、好奇心だけではなく、表現力や自己調整力が促された。 <p>○幼小合同の研修会、交流活動の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で、子どもたち同士の直接の交流は難しかったが、主に5歳児の担任と小学校の管理職や低学年の担任との連携の中、互いの作品展を見合ったり、給食体験をしたりすることができた。その中で、進学に向けての期待が高まり、給食を食べることができた喜びが自信となり、学校に対する不安感が払しょくできた子どもの姿が見られた。こうした子どもの姿や育ちを小学校にも伝えるなど、無理なくできる連携を継続した。 <p>○アンケート項目</p> <ul style="list-style-type: none"> 『自分の気持ちを伝えようとしているか』96%の保護者がそう思うと回答 『好奇心をもって遊んでいるか』100%の保護者がそう思うと回答 『小学校や中学校との連携は育ちにつながっているか』96%の保護者がそう思うと回答
自己評価	<p>分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 進学を目前とした3学期の年長児の姿を、教員同士で見合ったり、週案をもとに検証したりする中で、個々の「学びに向かう力（好奇心・集中力・持続力・自己調整力など）」の育ちがみられた。特に粘り強く取り組む・自信をもって人前で話す・他児の思いに気付く・それぞれの『ちがい』を認めるなどの姿がよくみられるようになった。 コロナ禍の限定された状況下ではあったが、幼小共に工夫し歩み寄る姿勢は継続された。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 教師同士の連携を深め、できる連携や交流を模索していく。その中で、遊びを通した子どもの姿や学びに向かう姿や育ちを伝え、発達の道筋を互いに共有できるような機会をつくっていく。 連携や交流を持続できる取組となるように、互いの『働き方改革』も意識しつつ、子どもの内面の発達をつなぐ連携を具現化していく。
学校関係者	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> 運営協議会や、地域各種団体を通しての幼小連携について、できる活動を探り取り組んでほしい。公立ならでは、この地域ならではの強みを生かし交流ができるよう協力していきたい。

評価	
----	--

(3) 預かり保育に関して

具体的な取組

- ・預かり保育担当教員（早朝預かりと教育課程に係る教育時間終了後預かりの2名）と担任や教職員との日常的な話し合いの時間を確保する。
- ・課題については、具体的な解決に向けての援助を明らかにし、教職員間で連携を図る。
- ・預かり保育時の災害に備えて、預かり保育の時間に避難訓練を実施する。

(取組結果を検証する) 各種指標

- 預かり保育での子どもの育ちの姿の検証とともに、課題を共通理解できるよう機会をもつ。
- 『物的環境』『人的環境』の見直しを図り、年間指導計画に位置付ける。
- 預かり保育の時間内での安全指導を位置づける。
- アンケート項目
『預かり保育は子育て支援として役立っていますか』

中間評価

各種指標結果

○預かり保育での、子どもの育ちの姿の検証

- ・早朝預かり保育の実施により、より子どもたちが安心して過ごすことができる時間や空間の設えを工夫している。個々に応じてかかわることで、安心して過ごすことができ、異年齢児同士の関わりも豊かになっている。

○預かり保育指導計画の見直しを進める

- ・週案の立案は、必要に応じて担当教員以外の教職員も共同で作成し、子どもたちの実態に即したものになるようにしている。子どもの姿を的確に捉え翌日や次週の保育に活かしている。

○預かり保育の時間内での安全指導実施

○アンケート項目『預かり保育は子育て支援として役立っていますか』

- ・預かり保育参加者の保護者は100%そう思うと回答

自己評価	分析 (成果と課題)
	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の就労により、利用者は増加傾向にある。保護者の方の様々なニーズに細やかに応えられるように努めている。 ・預かり保育の利用3歳児が多いので、活動内容や個々に応じた場の設えの見直しを行う必要がある。 ・預かり保育時間内での避難訓練を実施し、子どもへの安全指導とともに、教職員の動きについても再確認することができた。
	分析を踏まえた取組の改善
	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の姿や保護者のニーズに応じた預かり保育の在り方を検討する。 ・さらに異年齢児同士の関わりの中での育ちを育むための環境作りの工夫を重ねる。 ・週案の立案や記録をもとに、年間指導計画の見直しを丁寧に行う。

	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○預かり保育での、子どもの育ちの姿の検証 ○預かり保育指導計画の見直しを進める ○預かり保育の時間内での安全指導実施 ○アンケート項目『預かり保育は子育て支援として役立っていますか』
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・18時までの預かり保育を実施していることは、ほぼ地域に浸透していると思われるが、8時からの早朝預かり保育についてはまだまだ周知されていない。園からの回覧板やポスターなど、周知への努力も見られるが、さらに運営協議会理事も様々な会合などで広めていく。

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ○預かり保育での、子どもの育ちの姿の検証 <ul style="list-style-type: none"> ・同じ場で遊ぶ中で、異年齢の遊びに刺激を受けたり、関わりながら一緒に遊んだりする姿が多くみられるようになってきていた。 ○預かり保育指導計画の見直しを進める <ul style="list-style-type: none"> ・日々の利用者が異なる中での指導計画立案が難しく、担当者と相談しながら、実態に寄り添った預かり保育計画を見直し、季節や子どもの関心に応じた環境構成を工夫し実践につなげている。 ・預かり保育中の降園時刻が各家庭の事情によって異なることへの対応策として、保護者と共に遊びの区切りをつけ後方づけをして降園してもらうようにした。その結果、自分のしていた遊びを保護者に伝えながら、使ったものを片づける意識につながった。 ○預かり保育の時間内での安全指導実施 <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育内については年間を通じて1回実施。当日の預かり保育利用者がわかるボードを非常持ち出しと位置づけ、どの時間帯に誰が利用しているのかを把握できるようにした。 ○アンケート項目『預かり保育は子育て支援として役立っていますか』 <ul style="list-style-type: none"> ・利用実績のない保護者を除き、100%の保護者がそう思うと回答
--	--

自己 評 価	<p>分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異年齢の子ども同士が共に過ごす楽しさを味わうことができる取組として、OG保護者ボランティアによる読聞かせを月に一度取り入れた。コロナ禍で他学年との交流がもちににくい中での取組であり、異年齢のつながりや関わりにつながった。 ・早朝預かり保育、通常預かり保育が、保護者にも定着し、さらにれんらくアプリを導入したことで、保護者の利便性が促され、ニーズに対応できるようになってきた。事前に人数を把握しながら教職員の配置を行っているが、直前の変更にも柔軟に対応できる人員配置を行うための具体策を考えていきたい。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早朝預かり保育が2年目となる次年度は利用児は増加傾向にある。早朝預かり保育、通常預かり保育と、幼稚園で長時間過ごす子どもたち一人一人にニーズに応えた預かり保育の環境や活動の見直しを年度当初のみならず、月ごとの見直しを丁寧に行う。また、今年度に引き続き、OG保護者ボランティアにも保育参画を依頼し、楽しく心豊かな経験となる保育計画を立案したい。
--------------	--

学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策
	<ul style="list-style-type: none"> ・就労していても幼稚園を選択できるようになったことは、地域にとっても大変喜ばしいことである。引き続き、地域にも『預かり保育の実施』について周知できるよう支援を続けたいと思っている。

(4) 子育ての支援に関して

具体的な取組	(取組結果を検証する) 各種指標
	<ul style="list-style-type: none"> ・全教職員の連携のもと、一人一人の子どもの育ちの芽を見逃さずに、適切な援助を行う。 ・子どもの理解に加えて、保護者の思いも十分に受け止め、必要な子どもへの具体的な支援を共に考えていく。その際に『目に見える』成長だけでなく『内面』の成長にも気付けるようにし、ＩＣＴも活用していく。
	<p>～未就園児クラスについて～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入園前の保護者の子育ての喜びとともに『たいへんさ』にも十分共感できる場とする。 ・年間の計画や活動内容を示し、活動計画や具体的な活動内容を配布プリントやホームページなどでわかりやすく発信する。 ・未就園児クラスの保育室の環境を『安心』『期待』をもとに物や配置を再構成する。

中間評価

各種指標結果	○在園児保護者と連携する中での、子どもの育ちを検証
	<ul style="list-style-type: none"> ・園児同様、一人一人の保護者の方の思いや願いを丁寧に受け止め、共に考えたり悩んだりすることを特に大切にしてきた。その中で保護者とともに子どもの育ちを喜び合える関係が築けてきている。
○未就園児クラスの案内をより具体的で広範囲な発信	○未就園児クラスの案内をより具体的で広範囲な発信
	<ul style="list-style-type: none"> ・情報発信については、小規模事業所、区役所・児童館には園長が配布資料を持って出向き、担当者との連携を図り、小規模事業所の園行事参加も実現した。未就園児クラスのホームページを開設、その他として学区内回覧板や掲示板などで頻繁に開催状況や活動内容などを知らせるようにした。 ・登録者数は昨年並みではあるが2学期以降増加している。
○未就園児クラス内での、子どもとその保護者の『育ち』の検証	○未就園児クラス内での、子どもとその保護者の『育ち』の検証
	<ul style="list-style-type: none"> ・保健師の講座や在園・卒業の先輩保護者による座談会を計画する中で、未就園児クラスの保護者が思いや悩みを互いに出し合ったり、育ちの見通しもったり、大人の関わりのあり方を学んだりする姿がみられた。

自己評価	分析 (成果と課題)
	<ul style="list-style-type: none"> ・小規模事業所の園行事参加を含め、利用者には好評をいただいている。南浜地域及び周辺地域における子育て支援センターとしての役割は一定果たすことができている。 ・0～2歳児の保護者の方々の子育ての不安や悩みに応えたり、子育ての楽しさを味わったりで

	<p>きるような支援を充実させていきたい。</p> <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、地域の子育て支援事業との連携を図り、自園の子育て事業についての周知を徹底する。 ・保健師の講座や先輩保護者との座談会を継続すると共に、未就園児や在園児の保護者の方々自身の『自己肯定感』を高められるような、話合いや日常の言葉かけ（相談）などに努める。 <p>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○在園児保護者と連携する中での、子どもの育ちを検証 ○未就園児クラスの案内をより具体的で広範囲な発信 ○未就園児クラス内での、子どもとその保護者の『育ち』の検証
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南浜地域だけでなく、周辺学区の子育て世代のサポートとして、貢献していると思われる。さらに『口コミ』や『オンライン上』での広報活動に取り組んでいてほしい。運営協議会理事も、地域内外の会合で周知していきたい、 ・未就園児クラスの参加者増を引き続き目指してほしい。

最終評価

	<p>（中間評価時に設定した）各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ○在園児保護者と連携する中での、子どもの育ちを検証 ・毎月末の誕生会の後に、誕生時の保護者と園長とで座談会を行った。生まれた時の様子や名前の由来を保護者同士で話をしたり、子どもの成長と共に喜んだりする時間となった。その中で、我が子の育ちだけではなく、他児の育ちやクラスとしての育ちを感じている姿も多くみられ、みんなでみんなを育てるという意識につながった。 ○未就園児クラスの案内をより具体的で広範囲な発信 ・1年を通して、小規模事業所、区役所、児童館へは予定表を配布した。ホームページには予定表や行事等を載せたり、その時々の様子を発信したりした。行事を楽しみに思って年間通じて参加される小規模事業所もあり、地域の子育て支援センターとしての役割を果たすことができた。 ○未就園児クラス内での、子どもとその保護者の『育ち』の検証 ・在園保護者、OG保護者が先輩ママとして参画する座談会を定期的に行い、その時々の思いや困りを出し合うことができる場をつくり、親子ともに安心して過ごせる居場所となった。
--	--

自己 評 価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在園児保護者やOG保護者と、未就園児保護者の座談会は、共に子育てをする保護者同士がつながったり、悩みを出し合ったりする場となり、「困りをわかってもらえた」という安心感となつた。 ・2歳児保育を求めている傾向があり、そのニーズを受け、幼稚園でできる2歳児クラスの開設に取り組みたい。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者同士のネットワークができたり広がったりし、保護者が学び合ったり助け合ったりできる場ができるよう、OG保護者にも協力いただき取り組んでいく。 ・未就園児保護者の2歳児クラスのニーズに応えることができるよう、開設に向けて取り組んでいく。
--------------	--

学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策
	<ul style="list-style-type: none"> ・月の予定表を小規模事業所、区役所、児童館などに配布することは、取組を知らせる手段として有効であると考える。ポスター掲示などは協力したい。

(5) 地域とのかかわり（社会に開かれた教育課程）に関して

具体的な取組	(取組結果を検証する) 各種指標
	<ul style="list-style-type: none"> ○学区諸団体や地域への情報発信の回数や内容 ○運営協議会のご協力で行う活動の取組状況とその中の子どもの育ち ○アンケート項目『幼稚園の取組の中で地域や地域の人に親しみをもっているか』

中間評価

各種指標結果	○学区諸団体や地域への情報発信の回数や内容
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の会合は再開されつつあり、その会の中で幼稚園の保育の様子や未就園児クラスの取り組みなどを発信している。
○運営協議会のご協力で行う活動の取組状況とその中の子どもの育ち	○運営協議会のご協力で行う活動の取組状況とその中の子どもの育ち
	<ul style="list-style-type: none"> ・園庭（主に畑）の整備・芝生の育成などを通し、日常的に幼稚園の教職員以外の地域の大人の方との多様な関わりがみられる。 ・今年度も引き続き小学校2年生との連携事業として『稻の栽培』に取り組んでいる。また例年に引き続きさつまいもの栽培も行っている。全園児が、運営協議会理事の方だけでなく、地域の方々の名前を覚え、親しみを感じ、見守られている安心感をもつことができた。
○アンケート項目	○アンケート項目
	<ul style="list-style-type: none"> ・『幼稚園の取組の中で地域や地域の人に親しみをもっているか』は100%の保護者がそう思うと回答

自己評価	分析（成果と課題）
	<ul style="list-style-type: none"> ・交流活動も少しずつ再開し、直接子どもの育ちを感じていただく機会をもつことができた。 ・特別な『行事』や『取組』の中だけではなく、日常の中での様々な地域の方々との心の交流を活発に行うことができた。
	分析を踏まえた取組の改善
	<ul style="list-style-type: none"> ・園での育ちや、園の取組を学校運営協議会や地域の方々に、さらに詳しく明確に伝え、新入園児数の増加にもつなげていきたい。
	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標
	<ul style="list-style-type: none"> ・学区諸団体や地域への情報発信の回数や内容 ・運営協議会のご協力で行う活動の取組状況とその中の子どもの育ち

	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート項目『幼稚園の取組の中で地域や地域の人に親しみをもっているか』
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お米やサツマイモの栽培や園庭の環境整備などを通して、地域と園児との直接の触れ合いを積極的に行えている。引き続き、園からの要望に応じて、行動していくつもりをしている。

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <p>○学区諸団体や地域への情報発信の回数や内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学区自治連のご協力により、地域自治連所属町内の回覧板により園の取組や未就園児クラスについての情報の回覧を行う。また年2回町内掲示板により掲示も行う。 <p>○運営協議会のご協力で行う活動の取組状況とその中の子どもの育ち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度も運営協議会のご協力で(単発的なもの・長期的な取組を含めて)7つの取組が行われた。その中で、地域の中で豊かな自然を感じる体験をしたり、地域の方と交流し親しみをもつたりする姿が多くみられるようになった。 <p>○アンケート項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『幼稚園の取組の中で地域や地域の人に親しみをもっているか』は100%の保護者がそう思うと回答
自己 評 価	<p>分析(成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域への情報発信は地域の方々の多大なるご協力のおかげで、回数的には満足できるものであるが、さらに園から伝えたい保育内容や、預かり保育の実施・未就園児クラスの取組などを、より分かりやすく伝えていく必要がある。 ・昨年度に引き続き『サツマイモ栽培』『米づくり』『田んぼ遊び体験』『十石舟乗船体験』『(園独自の)ミニ花がさパレード』『花売りやさん』などの取組に加え、今年度は『昔遊び』をしていただいた。その中で、地域の多様な自然環境に親しむ、地域の歴史への興味が芽生える、様々な人との関わりや応援をして頂く経験を重ねる、そしてなによりも、園や家庭以外の人々からのあたたかい愛情を感じる、などの育ちがみられた。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内会所属以外の学区の方々や周辺学区への働きかけの方法の模索も続ける。 ・様々な地域と関わる経験をさらに、通常の保育との関連性を高め、保育の充実を図る。
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍でできなくなった取組を再開し、子どもだけではなく、保護者も共に地域とつながる体験ができるように取り組んでほしい。 ・子どもたちの豊かな体験を支えていきたい。できる協力をていきたい。

(6) 教職員の働き方改革について

<p>重点目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員一人一人が自らの健康や生活を守り気持ち良く働くことが、幼稚園における教育の充実につながるという自覚をもち、自らの働き方についても意識改革を行う

具体的な取組

- ・それぞれが自分の担当業務に対して、計画的に進めようとする意識をもつ
- ・担当が一人で業務を負うのではなく、教職員全体で業務を分担できるように、指示できるような体制づくりをする

(取組結果を検証する) 各種指標

○教職員の勤務時間の推移

○年休や特休などの取得率

中間評価

各種指標結果

○教職員の勤務時間の推移

- ・教職員の勤務時間はほぼ昨年並みを推移している。
- ・昨年に引き続きクラス担任の業務の中で他の教職員がサポートできる業務については、他の教職員でカバーできるようにしている。職員会議などではなく、ホワイトボードや書面を通して指示するようにし、時間短縮できるように工夫している。

○年休や特休などの取得率

- ・教職員の取得率のほぼ昨年並みを推移している。

自己評価

分析 (成果と課題)

- ・保育の質を保ちつつ、業務全体の量を減らせる方法を全教職員で模索している。
- ・時間をかけて重点的に取り組むべき業務については事前に資料を配布するなど、各自でできる工夫をして取り組めるようにする。

分析を踏まえた取組の改善

- ・園全体としても効率化できる業務の見極めを行う。(例可能な業務は電子化・ファイル化を行い、効率化を図るなど)
- ・一人一人の教職員が計画的に業務を行い、短時間で進行できる工夫を模索する。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

○教職員の勤務時間の推移

○年休や特休などの取得率

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・様々な個別の対応や、収束の見通しがもてない感染症対応など、大変な状況が続いているが、教職員の心身ともの『健康』があつてこそ、豊かな保育であるので、さらなる効率化を図ってほしい。 そのために、環境整備など運営協議会としても支援していきたい。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果

○教職員の勤務時間の推移

- ・働き方改革への意識をもち、平常時は比較的早い時間に退勤しようとする教職員の姿が見られた。

○年休や特休などの取得率

- ・教職員の取得率のほぼ昨年並みを推移している。

自己

分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題

- ・『働き方改革』の必要性は、地域また保護者にも徐々に浸透してきている。

評価	<ul style="list-style-type: none"> 業務の分担も進み、担任が、勤務時間内に行える保育に関連した業務の時間が増加した。 I C T 機器を取り入れることで、効率的になった面も見られるが、慣れない機器の作業に時間要する面も見られる。なるべく多くの教職員が活用できるように、研修の機会を設けたい。
学校 関係 者 評 価	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 保育の質を保ちつつ、業務の効率化を図るためにさらに工夫ある取組を進めたい。（行事などはレジュメを残し、文書やファイル等で共通理解を図るなど） I C T 機器研修を取り入れ、いろいろな機能を活用できることで、将来的な働き方改革につなげたい。 <p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもたちの笑顔に直接つながるため、教職員一人一人が健康に過ごすことを大事に意識をもって、さらに改革を進めてほしい。 引き続き、業務の効率化のためのサポートが必要な場合はできる支援はしていきたい。